



79
1069
7

普救類方卷之四上



瘡疾

一切の瘡に

青皮を焼粉にして一匁瘡のおこる處に酒

一匁飲べし 本草綱目

又方旱蓮草を槌きむらう男ハ花の子女ハ右乃

子の脈下はけ其とと古銭をそおさへ布に巻

さざめをくべし良久して右乃薬紙をくくれば脈下

ありふくれの中なる物出るなり是を天灸といふ

この天灸も多れば瘡おつるなり 同

又方五月五日小天いませり前より青蒿をとり

陰乾ふしうらぬ四匁桂心一匁粉みして瘡發る前

林良適

丹羽正伯

纂輯



91-1815

酒にて用也 同

又方生薑三四分はくも小搗汁を煮るごとく
碗にいれ夜星散をうけし夜寝るごとく
空腹のときより脾胃痰をわらし寒熱れり

傳信易方

又方瘰癧乃發る時より附子を粉ふ醋にて
搗れをけおろかふみわりて

肘後備急方

又方端午の日より艾を病人のあ乃奉乃
尖りに灸を三壯とてより

衛生易簡方

又方獨頭蒜一ツ搗みぐらへ百草霜をかきまぜ大豆
乃大豆丸に瘰癧乃發る一時を前にの脈下れ上
よ金銅錢を其より至字乃方とてしけを錢の
山を小蚌蛤にておさへ絡又い布を縛るべし男は

たの子女やうに右の脈下れをくべし並に右乃丸
藥一粒生薑酒にて用也酒を飲り者には生薑湯
にて用也瘰癧まがをけわらぬ熱して飲べし先
熱ゆらぬのいりちみしてのときより 同
又方半夏二枚炒黒くし粉めて焼酒にてとき绿豆
乃大豆丸に發目の早朝に焼酒を飲べし 藥聚單方
又方男女とも小背骨第一骨節の盡るを先計りて
後灸を二十壯とてより 或は第二骨節の灸を
とるかより 得効方

瘰癧久しく瘰癧ざらん

蒼耳子を焙り粉ふ酒糊にて丸に酒にて用也或は
根を煮てより又生乃蒼耳を搗汁を煮る
のときより 本草綱目

又方鼈甲を醋に浸し炙り粉砕して一匁づ酒にて
 用ひ發日乃前夜の夜一服發日乃早朝一服
 發る四十分より一服用ひて一服をいれをもち
 さらば雄黄少々より加へ用てより 同
 又方伏翼屎を一匁發る前冷茶を用ひ 同
 又方鬼箭羽穿山甲各半分焼灰して二三分程づ
 發る四鼻より吹入てより 同
 又方乾姜 良姜 等分まきぎく一匁水天目一盃入
 七分の煎つた飲てより 肘後備急方
 又方百草霜二匁香附子三匁粉砕し大豆乃大豆
 丸ト五六十粒空腹烏梅の煎湯にて飲べ一日を
 毎ごとくす右の如く用てより 彙聚單方
 瘡久し瘡を腹に塊し寒熱人むあるは瘡母とす

芫花炒朱砂各半分粉砕し蜜にて和り小豆乃大豆丸
 十粒づ棗を水にて濃煎して和りて飲べ 得効方
 温瘡ハ熱はよく寒けかたあり
 青蒿二十匁童便一匁干乾く焙り黃丹五匁い
 とり粉砕して二匁づ白湯いれ飲べ 本草綱目
 又方常山一匁小麥三匁淡竹葉二匁水にて濃煎し
 夜明け前飲てより 同
 又方黃丹二匁蜜少く水に入攪き用ひ小兒乃温
 瘡に用てより 同
 脾寒く小兒瘡れころふ
 附子を熟灰し入るぐまき少く皮と臍と瓜去り二匁
 五分草菓仁二匁五分生薑七片を七匁水二合半と
 いれ一合半煎つた發日の早朝用ひ或は氣虛乃

瘰癧熱少くをけずなく又いをけぶらうとほて熱るに
小れより 同 附子の末製けのちあり

虚分の瘰癧自汗多しやまざるふ

黄丹百草霜多分粉めてこぬ飯のとり湯を發日

の早朝は飲べーこぬけー二度用てよう 或は糊を

餅り丸とて用てよう 同

瘰癧發とば嘔吐あらん

綠礬一ぬ乾姜五ぬ半夏生姜汁よりをり

或五ぬ粉ふーあつて發日の早朝は湯を醋を

さー右乃粉葉をいれ飲べー 同

腫氣

水腫ハ初月浮腫指を按ばらびみてあつてさるなり

榆白皮を搗細ふ米とひらり粥を煮て食し
てよう 本草綱目

又方黑豆一合水らうにいれ煮かき粉ふして二ぬ

げ飯のとり湯をて用也 同

又方桐葉を水で煮其汁を腫るをぬいして茶小

少なり飲てよう 又い小豆を加へ煮て用てよう 子足

浮腫るに用てよう 同

又方白高陸の根皮をけつり豆乃大さなまぎみ

二合水ぬ合入二合すん煮はぬ其心へ茶ぬいれ粥ぬ

煮て毎日合とぶー少一服りてよう かの食を何

くても食とぶー 同

又方蓖麻子を搗ぬらう臍に貼てよう 衛生易簡方

又方鯉魚一頭重さ百五六十ぬのぬぬきり冬風

芥以葱白と研れど煮て合をどぶし 同
 又黒牽牛十石半分の炒熟し半分は生はく粉ふし
 一ふみ分つ葉白皮の煎湯ふ木香の粉ふし入右の粉
 葉を入かきまぜ用也 傳信尤易方
 又方牛蒡子を炒粉ふして一ふづ日に三度づ湯
 て用也 本草綱目

水腫脚より腫おるの腹を腫のがるに治るに
 葱の茎葉とふみまぜみみはく煮て足とらして
 一ふし日小四五度漬とぶし 同
 又方蓮葉葉本多分水して煮て腫るを浸し
 洗ふくくし 同
 又方赤小豆五升を炒り煮たらし汁二升五合を
 とり足膝をしめて一ふし腹を腫のがるに治るに煮

一ふし小豆を合をどぶし 同
 年以腫氣よりなるふ
 鯽魚こいさ腸をとり鱗はさげ高陸小豆多を合の
 鯽乃腹の肉入くくりささめし煮て煮熟し小豆つり
 を合し汁をものして一ふし 同

又方大豆を炒り煮て煮熟し汁をのこ豆を食
 くとし小豆もくし 同
 又方鶏子と打はく腫るをゆりては乾くまを塗る 同
 又方蚯蚓糞を粉ふして三年醋してとれた時つる
 一ふしゆりて一ふし 千金方

腫氣脹みし息せりく臥さるるに
 郁李仁半合を搗ふらし粉粉とつれ搗て餅や合す
 して大便通して愈べし但し腫氣大便結ると用ては 本草綱目

又方馬兜鈴を水に煎じ用也 同

又方杏仁十五粒を去殼研き水に煮て粥す

煮て食す 同

又方青頭鷲一ツ常のおとく料理し米にまぜ粥小

煮て食す 同

又方桑枝束一束を水に煮て灰汁を去り水に煮て

其汁を小豆を煮空腹に飽かぬまで食す

飢えはまて食すとべし 飯を食すとべし 同 肘後備急方

陽水に遍身腫れはよく面赤く咽渴息せりく小便赤く

紺葶藶十五粒炒粉小防已二十粒粉小一縷頭

驚乃血糸に頭を搗き大豆の大きき小丸として二十

粒空腹に白湯にて用也 浮腫経さるものハナ粒日

三四度用てより一も小便をとりしは小便通じり候也

猪苓乃粉二十粒水に煮て 本草綱目

陰水に腫れつゝ息せりく小便を利する葦朮用也 却て

通じりて腹はゆるかり

附子皮と臍と瓜すり一丸みか沉香三分生姜三分

水天目二盃入一盃は煎じつち冷して用也 同 附子の毒を

腫れ小便赤く通じり候也

浮萍を日干し粉して一丸づつ白湯にて用也 同

又方茯苓皮と椒目と等分水に煮て煎じ用也 同

又方冬瓜を切つて煮ても食してより 同

又方白茅根二十粒小豆七合水七合入煮て水

茅を去小豆を煮りて食してより 大病の後水腫と

小便通じり候也 同

又方馬蘭葉一握黑豆小麦少づつ入酒一碗水一碗

入煎ト空腹ノのトよりト同
又方猪苓ヲを水ニ煮テ煎ジ汁ヲ猪苓ノ粉ヲを
一ニづク飲テよりト 肘後備急方

腫ル氣息せりク大小便トもハ通ゼざらふ

郁李仁杏仁炮シ皮ト尖ト瓜ト子ト葶苈仁等分
粉シ糊シ小豆行丸ト七八十粒飯粥ヲ湯

そのト下トよりト 彙聚單方

湿チ氣ノ腫ル氣ハ脹大腫ニら足脛少ク腫レて小便通

トクク息たり嗽づるなり

黑牽牛子十分厚朴五分同ク粉シて二ニづク生

姜湯ニて用ユ 本草綱目

葱ヲ黄ニ腫ルるふ

瓜蒂ヲ焙シ粉シ少シづク毎日鼻のツらハ吹ツ也

愈ズんバ黄芩ト水ニ煮テ濃煎ト用ユ 衛生易簡方

腫ル氣ハして足ニもハ或ハ身ノたともハ右ニもハかと

腫ル氣ハはたため

灰ヲ水ニ煮テ移リ腫レるる灰ニ塗テよりトかハなば

肘後備急方

又方小豆麻子同ク楝子らシ腫レる不傳ベト 同

又方巴豆ヲ水ニ煮テ者ヲ汁ヲ布ニひシ腫レるる

又方杏ノ葉ヲ水ニ煮テ濃煎ト熱シて腫レ

腫ル氣ハ脹大腫レる鼓脹ノもハかとるふ

草薢ヲ粉シ蒼耳子ヲ燒テ灰ニて多分水入カきき也用日ニ二ニ度用てよ 千金簡易方

腫ル氣ハ脹大腫レる鼓脹ノもハかとるふ

草薢ヲ粉シ蒼耳子ヲ燒テ灰ニて多分水入カきき也用日ニ二ニ度用てよ

千金簡易方

又方楮實子そこのこを水みづして煮ゆつら膏こうや一雀屎つばく五ご人にん 茯苓ふくろう十じゆ人にん 粉こな小せう一ひと 右みぎの膏こうして移うつり大豆とうずの土つちを丸まる 一ひと七八しちやう粒りゅう 白湯さくゆして用もちひ小便せんにん通とほじて愈よべ一 衛生易簡方

老人らうじん面赤おもてかほ小兒せうじ足浮腫脹あしうしん脹はうて肢あし大おほく脹はうるる小せう

梁米りやうまい一合ひとくわい 研ひ素白皮そはくひ四十しじゆ人にんを水みづして濃煎じゆして汁じゆ

して煮ゆ空腹くうふく人食ひとくひとへ一 本草綱目

小兒水腫腹脹實熱せうじすいしゆふくはうじつねつして小便赤せんにんせきく赤せきづる一

黑牽牛子くろけんぎゆうしを粉こなして一ひと人にん青皮せいひ乃煎湯せんたうして空腹くうふく

一ひと四し分ぶんと一同どう

水腫すいしゆを煩わづらふ一大おほ方ほうハ膚くわもさ一ののかり早はやく治ちやうと一

和穀わこく十じゆ人にん 粉こな小せう一ひと 茶湯ちやたうして用もちひ 傳信易簡方

鼓脹

鼓脹こはうハ肢脹あしはう滿みて面赤おもてかほ小兒せうじ足ハ瘦しゆ子者しよかり

苦瓠くわ乃瓢ひょうの向むかり肉にくと一り一杏仁きやうじん五ご人にん 尖瓜せんか乃炒ちやうて

粉こな小せう一ひと 糊かして移うつり小豆せうずの土つちを丸まる九く十じゆ粒りゅうづ一見みん一之し方ほう

みづ一と用もちひ 本草綱目

又方蕪菁子わしやうし半合はんくわい 水みづ五合ごくわい 泔げん汁じゆを一と一一盃ひとはいと一

下した飲のて大便だいべん通とほじて一或あるハ吐くを一と一愈よべ一 衛生易簡方

又方肝膈かんかくへ灸しゆ百壯ひやくちやうと一して一脊骨せきこつ第だい九く推おしの下したを傍はうへ

一寸いちゆんみ一づ一り一さ一ら一を一り一又またハ水みづ分ぶんの穴あなへ灸しゆと一百壯ひやくちやうと一して一

り一膈かくの上うへ一寸いちゆんかり一又またハ氣き海かい乃穴あなへ灸しゆと一十壯じゆちやうと一して一

膈かくの下した一寸いちゆんみ一ら一り一又またハ大腸だいぢやうの膈かくへ灸しゆと一四十九壯しじゆちやうと一して一

脊骨せきこつ第だい十じゆ六ろく推おし乃下したを傍はう一寸いちゆんみ一づ一り一さ一ら一を一り一又また 得効方

又方蒜あしを熱あつして一泔げん汁じゆと一り一さ一ら一を一り一又またハ皮かわを去さ綿わたと一して一臍へい

門かどへ一つ一り一冷ひやま一は一ら一と一り一肢あし乃一灸しゆと一して一苦瓠くわ飲の事ことと一

衛生易同方

又方郁李仁を搗きさらし麩粉にまぜ餅のぎとくし食を
とへ大便通じて愈りかり熱身腫ら息せりく臥せり
あつぎのう用せり 同

腹内氣脹とら息つとあへざる

葶藶子二合を炒紫を少く酒に浸して七日ぬき研ぶ

とら一匙づ温酒にのれせよとのとら 同

心下より脹とらけ氣脹満とらふ

陳皮を粉あり用や或は丸とて用せり 同

又方紫蘘子を粉に飯よかまませ合せて 同

鼓脹身の色黒く皮膚乾瘦渴つたよ

馬鞭草をさざみらり 乾く酒に煮熟し身汁
そのとら 同

冷氣中いさまり脹満とかりとらふ

陳皮四十々白朮二十々粉ボリ酒糊して移り煮るは又

さん丸に六十粒づ本香乃煎湯とて用や 同

瓜或は菓と喰とら心脹満とらふ

肉桂を粉ふ飯糊少く移り绿豆の大さふ丸十二

之粒づ白湯にて用や 本草綱目

又方温酒に酒に姜汁をまぜて一二盃のとら 得効方

小便白濁ありて脹満とらふ

益智仁塩水にいじ炒厚朴を生姜汁にいじ炒て

多分生姜三片枣一ツ水に口で用や 本草綱目

腎の臓虚一脹満とらふ

胡蘆巴を炒て二十々附子うぐとまきあて七々五分

硫黄七々五分粉ぬり麩を酒に煮糊して石の粉

菘瓜絲り大豆れ大豆れ丸にて七八十粒塩ゆじて用同 附子の葉
肢腫脹みらて黄色よかりとらふ

壺蘆と燒粉ふ温酒と空服用酒を
飲る者は白湯は用也 同

水盞ハ水毒の氣内にありり肢は脹る腫る動くたハ
肢のうられ音のさ々々鳴る皮膚のうら黒くかり也

射干の根を搗きをり一盃を飲べ水をりて愈べ 同
又方小豆白茅根をり水と煮茅を去小豆り

食してより 同
又方青蛙二つかり酥を塗炒かり蟻七炒苦壺蘆

ふを炒粉ふて二ふつ空服温酒と用也 同
又方肥れ筋をり肉をり粥を煮て空服食

とり 同

又方巴豆九粒皮と心と瓜り杏仁六十粒皮と炙りと

をり同く熱黄ふを搗き小豆の大丸一粒をりて

水をりて愈べ酒をりて 時後備急方

老人虚人寒氣をり心腹脹みり飲食すはさりに
附子りりやきふ厚朴姜汁を攪き炒き分りて

之を水天月二盃生姜七片枣二つ入一盃を煮て
はり用也青木香瓜加へ用也色はいく効ありと

得効方附子の葉
製法けりあり

黄疽 附黄汗
黄疽ハ大概湿熱をりたる病なり熱をり黄色をりたる
月の中まで黄むのかり
雞子一つ殼をり燒灰をり醋のうらみ入かきをりて

本草綱目

用の鼻のうらうら虫いで愈べし
又方田螺と清とあとの肉を入れた泥とろを取かき搗き
きくらし酒の中へ入れかきませ布はく渣とろ去て
その酒と飲べし日小三度飲てよし 同

又方生薑汁を熱身に度く塗きくよし 黄から色その
ぼくくちをるべし 同

又方小螺蛸を水に入れた泥と吐せ取かき煮て毎日食
し煮汁も飲べし 同

又方糯稻糠を水で煮て汁はそ熱身をいしては
糸に稲芒と炒黄ふく粉あて酒に入かきませの
てよし 衛生易簡方

又方益母草と搗汁をちかりく酒ぬけれかき
下し大便深よりく四五度あて愈べし 彙聚單方

又方生蘿蔔子焙くく粉あて七分白湯して
用ひ日三度づ用てよし 衛生易簡方

又方瓜蒂赤小豆粉ふく鼻の中に入れれば鼻中より
黄から汁おき愈べし 肘後備急方

又方萎萎葉を水で煮て葉ののろよし
黄疽の煩つきよし 衛生易簡方

柳の枝を水で濃煮しとさうにのろよし 本草綱目

時行病して黄疽を煩きよし
萎萎葉を水で煮てのろよし日小三度用てよし 得効方

黄疽熱身金の色れきく小便赤きふ
蕪菁子を粉あて一ふ水で用ひ日三度ぼくめひ

へし 本草綱目

又方薏苡根を水ぬせんとのろよし 同

又方乳髪を焼灰して一盃水にそ飲下と七日三度用同
黃疸熱あり小

蒲蓄を搗汁をちかりきり二三合をさうりに飲へ同
黄疸して大小便をづりくねし

黄連大黃醋少く多り各十五黄芩多り甘草各五
分粉少して二五つ食後白湯して用日三度づ

用てよう 治法彙

黄疽熱多腫こらうれ

苦瓠の瓢を棗の皮と程より童便に浸して一時くう
して取かき鼻の孔へさう鼻の中へさう

出く愈へ本草綱目

酒黄疽の心いふは肢腫小便黄かり是酒を酒に酔て
風ぬわたり臥す水入たうて病發るものなり

括樓仁をわたり殼とすり子すり一盃とり水天日
一盃入七分り蒸すつら寝さば用白曉しつら大便

より黄も色かり物を下して愈へ同
又方首蓴の根搗汁二三合をかりり飲て吐深

てよう 同
又方蛸螺を清き水に入を泥と吐せ取かき煮て

合し并に煮汁とのとよう 同
又方陳皮芫花各一分粉少して二五つ温ゆる酒ぬ

いれかきませ用日三度用てよう 衛生易簡方
又方田螺をよわい水で煮其汁とのとよう 治法彙

合物をわたりて後黄疽とかりよう
絲瓜皮も小焼粉少して二五湯そ用白麩煎にあり

其病發るるは麩の湯そ用白酒にあり

酒にて用ひて何れもあつて憂うるふ其病と
蒸し用の志きりに多く飲てより 本草綱目

病後熱方面にも黄色より吐血して諸業効さふ

小螺蛸十粒を清水に入を泥と吐せ肉とみか

搗きさらし水よかきませ一夜とれて夜明の何分右の

ういものともみさらし飲てより二三度のち血止りて

つるべー 同

黄疽黒色より愛むるん

王氏根を搗き汁をとり三碗早朝よのしびー書み

つり小便より黄多と出るとも物どんい毎日用

てよりー 同

俄に黄疽を煩い大小便結りて通せざるふ
大黃草薤白粉ふ一蜜して祓り大豆の大た丸し

十粒つ含前よ冷水を月日之度づ用ひ 得効方

又方蕪菁を搗汁と志かりより飲べー嚏して鼻より

黄なる水ぬかー或ハ腋中深うて愈べー 同

急黄病ハ黄病乃志かりより命も危き志かり

かり胸みら息づいあくる命も危き志かり

生の鬼白を搗汁と志かり飲てより一せ乃鬼白

ちく乾く公粉ふ一あはく用ひ 本草綱目

又方蕪菁の子を搗細ふ一あを入かきませ汁と志

かり飲べー嚏出く鼻乃中より黄多をみか

一大便りて愈べー 同

又方茵陳をみか濃蒸つちいづも飲て止 衛生易方

又方雀屎二ツ冷水にいれ研のそよりー 同

又方百合を蒸して蜜よかきませ合りてより粉ふりて

蜜ミツのかきませ用ヨウバハをレ用ハむレ百ひゃく合ごうの花はな白しろさのめと用ゆむら
あり同

小兒せうに也也身み黄わうぬぬかりかりくくららふふ

括くわく樓ろう根こんをつつきき汁じゆををききぐぐららりり用用ててよようう 本草綱目

又また方はう括くわく樓ろう根こんをつつきき汁じゆ一いち合ごうららりり蜜みつ一いち合ごうかかききませませ温あまめめ
て用用也也 同

又また方はう括くわく樓ろうをを焙あぶりり殼かををききりりみみづづらら一いち合ごう水すい天てん月げつのの一いち盃はい
入い七しち分ぶんはは蒸じゆししつつちち後ごはは皮かわはは用用也也 曉あけぼのよよううらら大だい使しららりり
黄わう色しきちちろろ物もの紙し下したしてして念ねんべべ一いち脾い胃いのの湿しつ熱ねつをを温あまめめてて服はくすす

又また方はう括くわく樓ろうをを焙あぶりり殼かををききりりみみづづらら一いち合ごう水すい天てん月げつのの一いち盃はい
入い七しち分ぶんはは蒸じゆししつつちち後ごはは皮かわはは用用也也 曉あけぼのよよううらら大だい使しららりり
黄わう色しきちちろろ物もの紙し下したしてして念ねんべべ一いち脾い胃いのの湿しつ熱ねつをを温あまめめてて服はくすす

黄わう汗あせハハ也也身み乃のもも足あし少すく一いち浮うき腫しゆ汗あせ也也 黄わう藥やく汁じゆののおおくく
衣い類るいもも滑なめりりものものありあり
とと施せ子しすす括くわく樓ろう仁にをを苦く參さんをを同どうくく搗たご粉こなふふ

醋すうをを雞けい子しニニツツひひらら一いちヤヤももぎぎおおややぐぐううをを行いくくをを右みぎのの
葉は瓜か種たねりり大だい豆ずのの大だい小せう丸わうトト二に十じゆ粒りやくづづ用用也也 日ひにに五ご
六ろく度どののじじべべ一いち 肘後備急方

又また方はう林りん樹じゆ皮かわををききりり燒や粉こなみみてて一いち合ごうみみををづづ白しろ湯とうをを
飲の下くだとと一いち日にち小せう三さん度どづづ用用也也 同

又また方はう耳じ草そう四し分ぶん施せ子しすす括くわく樓ろう仁にをを黄わう藥やく三さん分ぶん二に合ごうみみををききららみみ
水すい一いち升しやうとと蒸じゆししつつちち後ごはは皮かわはは用用也也 同

又また方はう蒸じゆ菁しやう子しをを粉こなふふ一いち早はや煎せん日にち汲ひくくそのその水すいをを五ごづづ小せう
便べん乃の黄わうをを澄じやうみみをを用用くくよようう 同

黄わう汗あせのの病びやう変へんトトてて黄わう疸たんととかりかりららるるいいむむ危あやまま症しやうありあり
玉ぎよ瓜か根こんををつつきき汁じゆををととりり六ろく七しち合ごうををととりり用用也也 小せう使し

汁じゆのの黄わう汁じゆととおお一いち盃はいとと愈なをべべ一いち 同

汗

自汗

その汗を止むるは自汗とす

防風を粉めて二匁三つらふらふじき浮小麦の煎湯せんたうにて用也 本草綱目

又方粳米と粉ふこ一給じふはは熱身ねつみ小撲せうぼくてよく同

又方何首烏かろうを粉こく一津つととした臍へその中へゆるる

てよく同

又方五倍子ごばいしと粉こく一唾つばひくととき臍へその穴あなへうづつ

をくべい同

又方白朮ひやくじつと浮麥うきまきと瓜水うりすいと煎せんくく煮ゆかいりく灸しゆと

去白朮きやくじつをくりくと焙あひりく粉こめく二匁にぼうづづ空腹くうふくにう浮

麥うきまきの煎湯せんたうにて用也 景聚單方

自汗じ汗にて夜臥よふとたへ愈めやく出るふ



黄蘗わうびやく六分ろくぶん麻黄根まわうこん六分ろくぶん牡蛎まがひ米泔まいせん浸ひじじ煨マキて粉こめくらと

三分さんぶん小麦こむぎ三十粒さんじゅうご水みづ五ご月げつ小二盃にふたまい入い二盃にふたまい煎せんじじ用也 本草綱目

氣虚ききょとるりり汗あせ止とむむ體たいはくれれ心こころのうれれ

黄蘗わうびやく蜜みつ一匁いちぼう多おほりり附子ぶし一匁いちぼう中ちゆうききりり多おほかかききみみて二匁

姜きやう七片しちぺん水みづ二碗にぼん入い一いち碗ぼんすす用也 得効方 附子の毒を去る

又方桂枝けいし剉さい附子ぶし一枚いちまい炮ぱうみみ剉さい合あてて二匁にぼう姜きやう三片さんぺん水みづ二碗にぼん

水みづ二碗にぼん煎せんじじ一いち碗ぼんすす用也 同 附子の毒を去る

又方川芎せんきゆう白芷はくし藁本かうほん各おの一匁いちぼう粉こふふ米こめ粉こ三分さんぶんかかききみみて二匁

綿わた一いち握にぎりり汗あせのあををううづづべべ同

又方鹿茸ろくじゆう酒しゆ一いち匁ぼう煎せんじじ附子ぶし炮ぱうみみて二匁ぼうかかききみみて二匁

又方姜きやう七片しちぺん水みづ二碗にぼん煎せんじじ一いち碗ぼんすす用也 同 附子の毒を去る

又方白朮ひやくじつ六分ろくぶん小麦こむぎ一撮いちさつ水みづ一いち握にぎりり煮ゆ乾かんくく麥あわととううづづ白朮ひやくじつを

普救類方一巻之四二

十五

六病瘵後虛分汗止本草綱目

龍骨牡蠣麻黃根時後備急方

黃芪五兩當歸五兩麻黃根十兩本草綱目

盜汗

寢つらう汗をのびく本草綱目

五倍子を粉ふ本草綱目

又方牡蠣を煨本草綱目

縛をくべ碎金方

又方霜本草綱目

又方黃芪本草綱目

又方黃芪本草綱目

小兒の盜汗

牡蠣煨本草綱目

汗多く少く大便結とらふ

肉蓯蓉酒一ひび焙じて二十文沉香十文同く粉ふ麻

子を搗具汁とやうげする糊とを移り大豆の大さふ丸本

百粒ちやく白湯とて用て本

風熱して汗あつた

脚底に汗多くあつた

燒人場土をすり足のうらにかりとより同

又方楊花と草履よりとより同

陰囊汗多くいづる

陽起石とやき粉やして二文酒一入粒とがうらにかりと本

汗の臭を辟ふ

丁香十文細小さざみ山椒十粒絹の袋一入懐中

とらへ汗の臭か同

白濁ハ小便より汗水のおく滑りる物通るなり

古き冬瓜の仁を炒粉やして二文づ飯のとり湯とて空腹

二服づのいべ本

又方略粉を煨黄蘗を炒して多分粉ふ水と移り

大豆の大さ丸一百粒づ空腹温酒とて用同

又方糯米一升二合半炒赤くし白芷十文粉水と移り

はく移り大豆の大さ丸一百粒末饅頭の湯とて用同

小便り膏の石菖蒲牡蛎とらとてより同

又方鬼絲子十石里炒酒一碗乃口入のきませ鬼
結子と去酒と熱して飲べし 治法彙

又方茯苓十石猪苓二石五分水と煮二十度かど
沸して飲べし又ハ遺精にも用てよし 肘後備急方

小便をけくして白濁あるふ
附子を熟灰に入らばとマシラキミミとニ石生薑三片水

天目小二盃つれ一盃せれ煮つめめとてよし
又方白附子熟灰入らばとマシラキミミとニ石生薑三片水

又方白附子熟灰入らばとマシラキミミとニ石生薑三片水
氣虚乃白濁

黄芪塩ふのきませ炒てふる茯苓十石粉あして一石
白湯とてのき下してよし 本草綱目

心氣虚小便をけく白濁或ハ赤濁あるふ

益智白茯苓白本多分粉あして二石白湯入飲せし 同

腎虚して白濁小便をけく盜汗をど出らぬ
茯苓四石竜骨二石五倍子十石粉ふ粉あして移り

大豆乃大豆小丸ト七八十粒空腹に塩湯とて飲下せし
一切虚分して白濁いづるふ 衛生方 簡方

黄蘗百四十石糯米八石哭即つれ童便入浸し晒しかいら
一又晒して九度ゆてあきみつれ蒸かり乾し粉ふし

酒糊して移り大豆丸ト百粒づ温ゆる酒とて用ひ
傳信か 易方

又方榆白皮をきぎみ水と濃蒸し用ひ 千金簡易方
又方白茯苓塩ふのきませ炒てふる山藥炒て多分粉あ

一石の肉と蜜をまぜ右乃二味と移り大豆乃大豆丸ト
五六十粒づ空腹に蜜の蒸湯とて用ひ白濁とて精泄

衛生易方簡方

赤濁いづとと赤く濁りたる物小便より通すら

蓮肉すすのこ六分蓮子心とらしのこ六分甘草かんざう多あまくして一分ほど粉こなを二

分づ灯心とうしんをゆきて蒸せんして汁じゅうをその汁じゅうに同

又方益母子やくぼし蒸せん垂たれしたるに搗たぐけをちぢりて空服すうふくよのそよ 同

赤白濁しやくはくじやくよ

黃蘗わうはく二十分ふ分ぶんハ酒さけをひいて炒あぶす分ぶんハ生なまはく用もちハ蛤かき

粉こな三十分ふ分ぶん神麴しんこく五分ぶん同どうく粉こな小ちひく水みづをて移うつり豆まめのたこ

れ丸まる一七十粒いちしちりゅうづづ白湯はくたうして用もちハ 彙聚單方

遺精いせい

遺精いせいハ眠ねる中ちゆうに覺おぼえどして精せいゆるかり

原蚕蛾げんさんごを焙あぶひいて翅つばさと足あしと皮かわ切きり粉こなみし糊かきして

移うつり縮豆しゆくとうのたこ丸まる一四十粒しじゅうしりゅうづづ塩湯しんたうして用もちハ又またハ

白濁はくじやく小ちひく用もちてよう 本草綱目

又方五倍子ごばいし十分ぶん白茯苓はくふくろう二十分ぶん粉こな小ちひく糊かきして移うつり豆まめ

ろたこ丸まる一いち空服すうふくよ十粒じゅうりゅうづづゆゆ用もち 彙聚單方

又方白竜骨はくりゅうこつ十分ぶん韭子すいし二分ぶん粉こな小ちひくて空服すうふくよ七分しちぶんづづ酒さけ

はく用もちハ寢ねさへは用もちてかよう 同

又方黃蘗わうはく炒あぶ知母ちも蛤粉かこな各おのづか粉こな小ちひく粥糊じやくかきして移うつり

豆まめのたこ丸まる一いち二十粒にじゅうりゅうづづ寢ねさへは白湯はくたうして用もちハ但ただし

青黛せいだいを衣いへ用もちハ但ただししはく用もちてかよう 治法彙

又方牡蛎ぼつれい炙あぶ黄わう小ちひく粉こな小ちひくて七分しちぶんづづ空服すうふくよ酒さけして

用もちハ寢ねさへは用もちてかよう 彙聚單方

又方藕子おしを熬あ梓粉しすいこなあして一分ぶんほど酒さけよよかきまをま用もちハ

目小め二に度どづづ用もちてよう 志しづづくく燈とうれればばああららままらら精せいりり

多し用てより 千金簡易方

虚分はく精をのぼるし泄るふ

韭子二合半 稻米五合 水六升五合はく煮大粥のごとく

一其汁を飲べし同

又方石脂皮を炙る素白皮を炙る酒を合して煮ト三人合を煮

はれ用也 同

又方膠二合酒二合のこしをいれ攪まを温め用也 同

又方車前草と摺汁とをかりきりのこしてより 同

心氣を勞し遺精とるん

竜骨遠志を炙る粉ふし蜜して移り大豆の大豆丸

ト珠砂とをふして六十粒蓮子の煎湯にて飲下也 本草綱目

精久しく泄て虚とるふ

蓮子心を去る辰砂を粉ふして二合を空服し白湯

して用也 傳信を易方

下部寒して小便より精りるん

赤石脂十合乾姜十合胡椒五合粉ふし醋糊して移り大

豆の大豆丸ト空服し十粒の飯の湯にて用也 本草綱目

えん氣虚し精泄して止むと便深しと足いゆるふ

陽紀石炭を炙るやま赤くし十合鍾乳石十合同く粉ふし附

子の粉を酒して煮右二味を移り大豆の大豆丸トて百

粒空服し飯の湯にて用也 傳信を易方 附子の辛製法は石炭の

陰差常にのこして精溢と出くやま針して刺ぶく

し心

韭子十合破故紙十合粉ふして三合水にて煮ト飲べし

日母の皮を炙る用てより 同

又遺ハ炙る女と交り精りるかり

白茯苓を粉にして二反飯のとり湯にて用也
又方牡蛎を焼き粉し醋糊して餅り丸トぶ六十粒づ
飯のとり湯にて用也 同

又方遊子瓜粉ゆて一盃程で酒にて用也日小二度用
てより 衛生易方同方

又方鹿角を研粉して一撮酒にかきませ用也日一
二度用てより 千金簡易方

又方半夏十反さざみ猪苓乃粉二十反の内へいれ同トく
炒黄小一丈毒とさほとさく半日程ゆて猪苓乃粉と
ふつし去半夏とつと粉を糊して豆粉を丸トかりたて
後猪苓乃粉と炒つとさつたつれ野をくべ一度に七
八粒づ温めつと酒にて用也又い塩湯にて用也より 同

消渴

上焦の消渴ハ渴つと水と多ぐのそそやまば小便をげき
とのかり中焦乃渴ハ食を多く含めてやまば小便をげき
大便もつたものかり下焦の渴ハつたつと小便をげきして
とつり淋病れがたものかり專渴つとたよ

泥竊十やと陰がけい頭と尾と瓜切さり焼灰に乾
つと荷葉を粉ゆて二反級とての水を飲つてより 日
三度用也 本草綱目

又方鯽魚鱗をい其候とれ腸とさつり其内へ茶葉とほ
ゆ紙よつと熱湯にいれつとやまば一飯か一合ととべ
六ツ七ツ程食してより 同
又方葱蒜仁を粥煮て含してより 同
又方绿豆を水で煮つと汁をのそより 茶に绿豆を

米一升也粥小煮て合とべし同

又方田螺一升水二升にて一夜をたて咽うく時

右のろといつがも飲べし毎日田螺をも水をも取て

のひびり或ハ田螺と煮て合し汁ともてよう湯は

よく小便通じくあらけ用てよう同

又方小麥を粥と煮て合とべしかり死つて心もどゆる

ぬより同

又方乾らう浮萍括樓根等分同く粉み乳汁

にて福り大豆の大豆小丸に四め千粒づ空腹より白湯み

て用の千金簡易方

又方糯米と研水かきまぜ其うかめをいう程も飲て

よう衛生易簡方

又方兔一しきはと腸と松去常のぶく料理し菜白

は八十と同く煮てらるる兔の肉をいっわをも食し

兼に其汁を飲てよう十便良方

又方兔絲子あけく並にいっわをも飲てよう消渴之く

愈ざりふ用の本草綱目

消渴熱ありて眼とあつて渴つたれよ

小麥を飯したき水はひしう淘食してよう十便良方

又方粳米半合粥み煮て熟しう耐酸枣仁の粉みふ

いれ控まを食してよう同

消渴水と飲とゆなく熱身骨節いみ熱ありふ

芭蕉の根を搗汁二合をどきぼりころのそよう本草綱目

消渴飲より小便ゆなく通じらる

蔬の根と搗汁をどきぼりころのそよう同

又方蕃薇の根と水と煮てのそよう同

又方黃蘗（きび）まきぎらめて八寸（約25cm）水（約500ml）合（約500ml）れ煮（煮）て四（約100ml）分（約100ml）夜（夜）ねど沸（沸）て（沸）て（沸）湯（湯）と（湯）れ（湯）の（湯）を（湯）よ（湯）く（湯）同

又方淡竹（たんちく）を（たんちく）火（火）で（火）炙（炙）り（炙）纏（纏）と（纏）り（纏）の（纏）を（纏）よ（纏）く（纏）同

又方鹿角（ろくかく）と（ろくかく）黄色（おうしょく）を（おうしょく）ち（ち）ろ（ろ）ろ（ろ）の（ろ）を（ろ）炙（炙）り（炙）焦（焦）し（焦）粉（粉）み（粉）て（粉）み（粉）を（粉）づ（粉）

酒（酒）と（酒）て（酒）用（用）の（用）日（日）小（小）三（三）分（分）を（分）用（用）て（用）よ（用）く（用）決（決）分（分）に（分）多（多）く（多）し（多）て（多）

消渴（しょうかく）小便（しょうべん）多（多）ず（多）り（多）て（多）淋病（りんびょう）乃（乃）出（出）く（出）か（か）り（か）ふ

榆白皮（ゆはくひ）百（百）六（六）寸（寸）水（水）二（二）升（升）合（合）ひ（合）く（合）煮（煮）じ（煮）す（煮）分（分）に（分）煮（煮）つ（煮）れ（煮）多（多）

く飲（く）同

又方桃膠（とうきょう）を（とうきょう）枇杷（ひちま）の（ひちま）核（かく）の（かく）大（大）と（大）程（程）口（口）み（口）好（好）く（好）と（好）津（津）と（津）て（津）吞（吞）

下（下）と（下）ぶ（下）同

又方薔薇根（じやうゐこん）を（じやうゐこん）き（き）ぎ（ぎ）ら（ら）み（み）水（水）と（水）煮（煮）じ（煮）用（用）也（用）

熱症（ねつしやう）乃（乃）消渴（しょうかく）

冬瓜皮（とうかひ）を（とうかひ）ち（ち）ろ（ろ）ろ（ろ）肉（肉）を（肉）ち（ち）ろ（ろ）ろ（ろ）二（二）三（三）寸（寸）水（水）合（合）後（後）小（小）嚼（嚼）食（食）して（食）は（食）本草綱目

又方陳粟米（ちんぼろこめ）を（ちんぼろこめ）飯（い）に（い）合（合）食（食）して（食）よ（食）く（食）同

腎虚（じんじよ）して（じんじよ）消渴（しょうかく）と（しょうかく）り（しょうかく）或（或）ハ（ハ）白濁（はくじやく）と（はくじやく）り（はくじやく）秘（秘）ら（秘）ふ

兔絲子（うしじ）酒（酒）に（酒）ひ（酒）ち（酒）ち（酒）ろ（酒）り（酒）ち（酒）ろ（酒）り（酒）内（内）に（内）研（研）焙（焙）り（焙）乾（乾）し（乾）粉（粉）に（粉）て（粉）

十五（十五）白茯苓（はくふくろう）蓮肉（れんじゆ）各（各）三（三）分（分）五味子（ごみじ）酒（酒）に（酒）ひ（酒）ち（酒）ち（酒）ろ（酒）り（酒）焙（焙）か（焙）い（焙）る（焙）粉（粉）

ち（ち）ろ（ち）ろ（ち）り（ち）七（七）分（分）山藥（さんじやく）と（さんじやく）酒（酒）と（酒）て（酒）煮（煮）じ（煮）ち（煮）ろ（煮）り（煮）糊（糊）と（糊）て（糊）大豆（だいず）乃（乃）大（大）さ（大）丸（丸）ト

ふ（ふ）十（十）粒（粒）づ（粒）て（粒）食（食）茶（茶）と（茶）米（米）飲（飲）して（飲）用（用）也（用） 治法彙

又方聖粟子（せいぼろこめ）を（せいぼろこめ）粥（じゆく）と（じゆく）煮（煮）く（煮）蜜（みつ）を（みつ）少（少）げ（少）く（少）合（合）と（合）は（合）得効方

又方黃蘗（きび）白茯苓（はくふくろう）各（各）二（二）分（分）茯苓（ふくろう）を（ふくろう）粉（粉）小（小）蠟（ろう）を（ろう）溶（溶）け（溶）て（溶）

稀（稀）り（稀）枇杷（ひちま）の（ひちま）皮（かわ）と（かわ）丸（丸）ト（丸）一（一）丸（丸）づ（丸）て（丸）棗（そう）の（そう）煎湯（せんたう）と（煎湯）て（煎湯）用（用）也（用） 同

常に（常に）極（極）か（極）き（極）物（物）又（又）ハ（又）麩類（ぶるい）を（ぶるい）少（少）く（少）食（食）し（食）脾胃（い）乾（乾）き（い）て（い）消渴（しょうかく）

少（少）かり（少）り（少）て（少）り（少）ふ

生姜汁（しやうがのじゆ）と（しやうがのじゆ）輕粉（けいこう）と（けいこう）の（けいこう）ま（ま）ま（ま）ぜ（ま）る（ま）程（程）で（程）河水（かみづ）と（かみづ）て（かみづ）の（かみづ）じ（かみづ）ぶ（かみづ）同

醫方類聚 卷之五十五

五十五

酒と好く多く飲て五臟枯燥て消渴となり冷物と好く合する
 鹿茸酒は浸し多りて十文の紫兔絲子酒はしし炒
 各二十文粉ふし蜜はく移り豆の大き丸に三十粒で
 合前小米飲して用也 同
 又方辰砂のみを黄連十文生地黄十文粉ふし蜜はく
 移り胡椒の大き丸に三十粒で燈心と棗と紙葉とを汁
 して用也 同
 消渴クアて水腫とかりんとするふ
 紫菀子蘿蔔子各一分粉めて二文づつ紫白皮乃蒸
 湯して用也 本草綱目

疝氣

一切の疝氣腹とららる或いはみわとすらん

延胡索一匁胡椒乃粉一匁酒天目一匁水天目一匁
 蒸入一盃半に蒸しはめ用也 衛生易簡方
 又方一番よりかりし絲瓜を葉のちとる落しる後し
 取黒中より粉ふし蜜はく移り每晚一匙で好酒して
 吞下とぐ病た乃方小あるはたを煮て臥右にあり
 右臥下して臥べし 救急方
 又方塩と茴香とひきませ炒熱して布にひき痛
 不を變べし 救急易方
 又方山椒子附子一匁づつ水と蒸し用也 治法彙附子の毒
 又方大方の烏頭より皮と臍と紙去蜜百六十文の内
 入れ煮てやりし方より付紙を焙かす粉ふし蜜はく
 移り豆の大き丸に二十粒で燈湯して用也 得効方
 又方鶏子を炒り黄とととり湯よひきませ飲

べー 本草綱目

又方胡桃一ツマき灰ふし熱酒よ入れかきませ用也 同
寒病心腹脹しりしえつみ腹中鳴きせとるに

本香一匁延胡索炒皮を去て一匁五分附子熟灰一匁入
うばとやれふし皮と臍と松さう一匁五分同くまざらう
二匁生薑六分水天目一匁五匁一匁五匁生薑一匁はち用
也 衛生易方附方附子の葉
物製は乃ちあまり

又方馬藟子二合さうり毎日二十匁づちまきせ水と
煮其汁を飲べし右二合水と漸く飲尽すてより 本草綱目
又方附子皮と臍と松さうり炒て八分山施子炒焦して八分
水天目一匁五匁生薑一匁五分生薑一匁五分一撮いし
かきませのそより大俵くさう腹しりみ汗いせよ是ひゆか
り用てより 同附子の葉製は乃ちあまり

又方丹參粉あて三匁水うそ蒸すのそより臍の下より

陰囊へうけいさつりみ汗せとるんとするに用ては 傳信易方

小腸氣ハ臍のわたり疼つく陰囊までいさつりいひかり
苗香垣よのまきせ炒て十匁把売十匁没薬五匁粉あして
一匁づち熱酒めかきませのびべー 衛生易方附方

又方苦棟子と炒黄ふし粉して二匁温め酒よ入れ用也 同

又方杏仁苗香各十匁葱白根焙りかきみ同く粉

小一匁二匁づち酒は攪胡桃肉と嚼て飲下まぜり 同

又方五靈脂蒲黄炒各一分粉あして二匁醋天目一匁入
蒸すつめ膏れおくし再び水天目一匁入蒸す用也 同

又方絲瓜を蒂ごとんやき粉あて二匁づち酒よ入れ用也 保壽堂方

小腸氣臍の下冷てやまげ蒸に陰囊かすく大にかり或ハ割手
つりいひり

疝氣偏墜ハ陰囊かゝ腫大なり氣脹てうぐくさるる
ぶふかり

絲瓜の葉をやきこゝ鶏子殻を二五回ぐ粉めて一
二ふつ温め酒をて用也 同

又方古き石灰を炒五倍子山梔子各分粉ふ麩粉
みずせ醋してとれた陰囊に付べし 同

又方天門冬六分烏菜一匁水にて蒸べしのじり 同
又方白頭翁の根を搗とらし陰囊に付てより一夜
けて瘡を生ず二三十日経りて愈べし 同

又方牡丹皮防風各分粉にこゝ二五つ温め酒
けて飲べし 同

小兒疝氣陰囊かゝ腫るる

蛭明うらの土と共々研粉ふ唾にとり陰囊に付て

衛生易簡方

小兒寒疝を腹にみつけ汗をよぶ

梨の葉瓜水にて蒸蒸しめをより 本草綱目
饑て心むを餓疝といふ

竜胆附子黃連各分粉めて一匁づ白湯を飲べし
日に三度用てより 肘後備急方附子の辛製はのむなり

諸蟲

寸白蟲中にわらひ心腹にみ腰脚を痛ゆりくるふ
蜂房をやき粉めて一匁酒をて用也虫死して出べし

本草綱目

又方榧子七粒で毎日合とべし七日用てより或ハ一度
り百粒火にくぐ燃合とべし 同

又方雷丸と水に浸し皮とさうり剉み焙りて粉ゆい先
早朝よ鳥とて魚の肉とて多り香しくしざづり
合し右の菜一匁を粥のうへ湯とて用ひ虫をのぼる
るる一 同

又方菜萹根ときざみ酒と水とに浸し一夜
朝早天よ其汁をのそてよう 衛生易方
又方櫻桃東へさし根とさうり水とて蒸ぶのしづ一 同

諸の虫と心いみ清る水を吐り

鰻鱺を水とて煮いうちも合してよう 本草綱目

又方苦楝皮を水とて蒸ぶのしづ出りて愈べり 得効方

又方七月七日み蒺藜をとり陰乾ゆい黒るやまにて
一匁づ合前に酒とてのしづ一 同

大便より虫と絶ざるふ

鶴虱を粉ゆいてみ水とてのそてよう 本草綱目

皮膚の下に虫あり蟹乃走がぶく声わけて小兒の啼
かぶくかるに

雄黄十匁雷丸十匁粉ゆい猪肉に掺多り熟し食
しづ一 同

九虫臟腑ありて久く瘡ざるに

栝榔を炮ゆい粉ゆいて二匁づ葱白と蜜と瓜水
に蒸ぶて汁とてのしづ一 衛生易方

又方黑牽牛二十匁栝榔十匁粉ゆいて二匁づ砂糖
湯よのそすぜ空胶よのそてよう 衆妙方

普救類方卷之四上終



